

スポーツの光と影 ～中高生選手に潜む心身の課題・背景・打開策を探る～

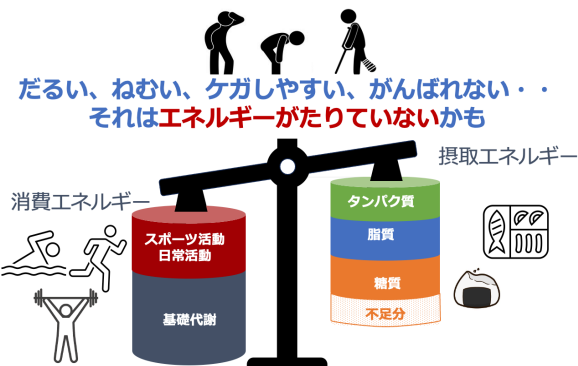
西九州大学・健康福祉学部
スポーツ健康福祉学科
特命教授 庄野菜穂子

R5～7 健診モデル事業によるシステム構築・実態把握

⇒⇒⇒ R8～ 本事業化による社会実装へ

中高生 アスリート健診 in SAGA

スポーツをしている中高生、
誰でも受けられます！



- 対象：競技に取り組んでいる中高生の男女
- 内容：血液検査・身長・体組成・問診
- 日時・場所：年2回まで・希望する医療機関で
- 評価：中高生アスリート向け判定コメントつき
- 返却：1週間程度でメールおよび郵送
- フォローアップ：月一回説明会・個別相談会

さまざまな背景

- 保護者・指導者にあった潜在的なニーズ
- 成長期に関する知識不足・誤解の存在
- 生活環境や習慣・心理or物理的制約
- 地球温暖化・運動過多がもたらす悪影響
- 指導者への権力集中（構造と意識）

サポートの成果

- 選手が抱える健康課題の見える化
- 数値目標と行動目標の共有・具体化
- ヘルスリテラシー・自律性・主体性の向上
- 第三者評価によって露呈した新たな課題

R5～7年度に達成した制度設計

- ✓ SSP女性アスリートウェルネス協議会補助金の活用
- ✓ 選手は健診と事後指導まで無料で受けられる
- ✓ 集団健診方式から、個別健診方式への地域展開
- ✓ 指定の医療機関で自由に受けられる仕組みへ発展
- ✓ 参加校は県内全域におよぶ65校余へ拡大中



R8年度～ 持続可能性へ向けて

① 県への依存度を減らし、自主財源確保へ

- ✓ 企業・団体・個人へ向けて広報を強化
- ✓ 賛同者からの寄付・外部研究資金の獲得など

② スポーツ指導者への啓発・法整備の強化

- ✓ 学会・関連団体・スポーツ庁への働きかけ